

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名

新潟県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	広神村立広神中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	19
生徒数	84	110	112	0	306	

研究の概要

1. 研究主題

すべての生徒にわかる・できる喜びを
～ 基礎・基本の確実な定着のための指導の在り方 ～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1・2・3年生 数学（生徒の理解度に差が出やすい教科であるため）
1・2・3年生 英語（学校全体として、特に学力が低い教科であるため）

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ

すべての生徒が定期テストで80点以上とることができるようにする
～ 教科書に記載されている内容を確実に定着させるために ～

仮説

- ・習熟の程度に応じ、わかる授業を展開する。
- ・計画的に小テストを実施し、理解の不十分な生徒に対する補充学習を行う。
- ・毎時間宿題を出し、家庭学習の習慣化を図る。

以上の万全な体制で定期テストに臨ませるシステムを確立することで、すべての生徒が基礎・基本の確実な定着のバロメーターになる定期テストで8割以上とることができる。

研究内容・方法

- (1) 全学年の数学、英語の授業で習熟度別編成による少人数指導を展開し、個に応じた指導を充実する。
- (2) 授業に関するアンケートを定期的実施し、生徒の学ぶ意欲の変化や授業内容の理解を確認し、すべての生徒が分かった、できたという成就感を味わえるように生徒の側に立った授業改善に努める。
- (3) 地域の学校が共通して行うテストにより、自校の学力水準の相対的位置を明確にするとともに、結果を分析し指導に生かす。
 - ・標準学力検査（4月）
 - ・学習指導改善調査（5月）
 - ・郡英単語テスト（9月・1月）

テーマ

全国学力標準テストにおいて全国平均の突破をめざす

～ 習熟の程度に応じた課題や教材を工夫し、すべての生徒が成就感や達成感を味わえるようにする ～

仮説

生徒の意欲・関心を含めた習熟度に応じた課題を提示し、教材を工夫することで生徒が「できた」、「わかった」という成就感や達成感をもつことができる。さらに「もう少しがんばってみたい」という意欲をもつことで、すべての生徒の基礎・基本の確実な定着をはかることができる。

研究内容・方法

- (1) 授業を通して、生徒の見方や考え方の実態を的確にとらえる。
- (2) 授業に関するアンケートを定期的実施し、生徒の学ぶ意欲の変化や授業内容の理解を確認し、すべての生徒が分かった、できたという成就感を味わえるように生徒の側に立った授業改善に努める。
- (3) 教科部会を充実させ、課題の工夫改善に努める。
- (4) 地域の学校が共通して行うテストにより、自校の学力水準の相対的位置を明確にするとともに、結果を分析し指導に生かす。

・標準学力検査 ・学習指導改善調査 ・郡英単語テスト

テーマ

確かな学力の基盤をつくる

～ 小中連携を核にして、地域ぐるみの学力向上を図る ～

仮説

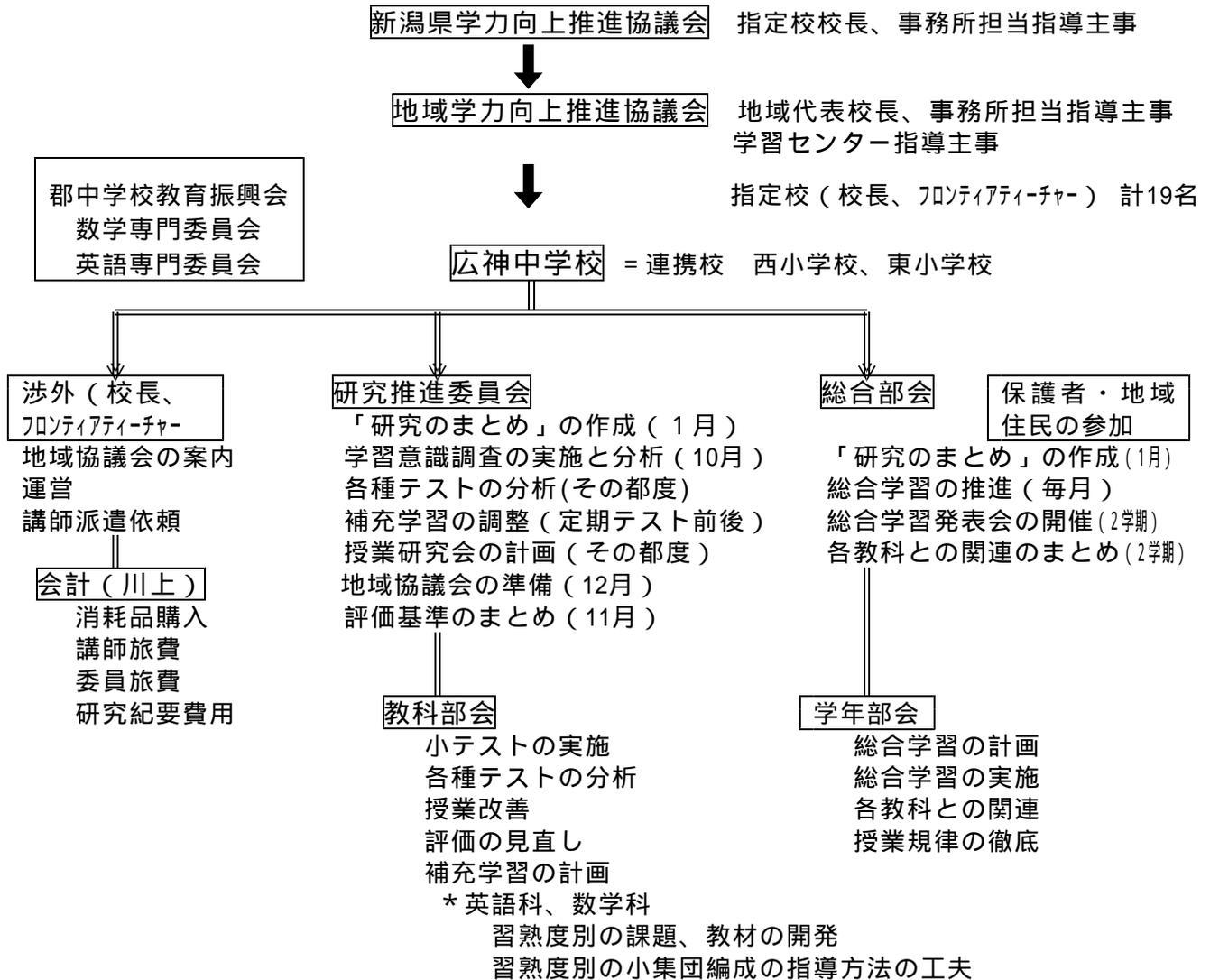
地域の小学校と中学校がお互いの学校の学力実態を理解し、各学校での授業に生かしていけば、継続した指導が行われ、生徒の基礎・基本の確実な定着をはかることができる。

研究内容・方法

- (1) 小中お互いの行き来を盛んにし、(例えば、中学校の教員が小学校で授業をするなど) 広神村教育振興会・学力向上部会を充実させ、情報交換を行う。
また、中高連携も具体的な形で進める。
- (2) 授業に関するアンケートを定期的実施し、生徒の学ぶ意欲の変化や授業内容の理解を確認し、すべての生徒がわかった、できたという成就感を味わえるように生徒の側に立った授業改善に努める。
- (3) 地域の学校が共通して行うテストにより、自校の学力水準の相対的位置を明確にするとともに、結果を分析し指導に生かす。

・標準学力検査(4月) ・学習指導改善調査(5月) ・郡英単語テスト

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

- 習熟度別学習に関して、数学で昨年度「基本」で学習意欲がないなど指導上困難であった。そこで、今年度は「基本」を設定せず、「標準」と一緒に学習するようにしたが、昨年度より意欲的に取り組むようになり、生徒同士の教え合いの場面も見られるようになってきた。また、1, 2年生では、本年度からひとまとまりの単元が終わるごとに習熟度別学習を行うことにより、全員が必ず身につけるべき基礎・基本を徹底して指導することができた。
- 2回 (5月、10月) の生徒へのアンケートの結果、「授業に真剣に取り組んでいる」生徒がどの学年・教科においてもおおむね80~90%以上いた。また、「授業がよくわかる」生徒もおおむね80~90%以上いた。5月のアンケートの結果を授業改善に生かし、10月アンケートの結果大きく上昇した教科・学年もあった。(1年理科45% 64%、2年社会42% 78%)
- 学力向上のための小中連携として広神村教育振興会・学力向上部会では、各学校の学力の実態を情報交換した。また、今年度は交流を深めていく中で、基礎基本を明確にするために中学校の教員と小学校の教員が組み、TT授業を行ってきた。(数学・英語) お互いの授業

をすることで「小学校でおさえおかなければならないこと」、「中学校で留意しなければならないこと」が明確になってきた。

- ・ 長期休業中希望者を対象に「学習教室」を行った。夏休みは約 1 / 4 ~ 1 / 5 の生徒が参加したが、終了後のアンケートではほとんどの生徒が「参加してよかった」と答えていた。

2 . 今後の課題

- ・ 習熟度別学習のよさがまだ十分に生かされていない。習熟度や意欲の面から生徒の実態に合った課題・教材や進め方を細かいところまで十分に検討していくことがこれからも必要である。
- ・ 生徒へのアンケートの結果、授業に真剣に取り組み、理解している生徒は増えてきているが、まだ学年・教科によって改善が見られないものがある。地域の学習センターと連携しながら目の前の生徒に「何を身につけて欲しいのか、考えさせていきたいのか」「そのためにどんな課題が必要なのか」を考えながら日々の授業改善に取り組んでいきたい。
- ・ 小中連携の取組を意味のあるものにするために方法等検討しながら進めていきたい。また、今年度はじめたばかりの地域の高等学校との交流も学力向上の観点から交流を深めていきたい。
- ・ 長期休業中の「学習教室」のもち方を日数・教科・指導体制などさらに意味のあるものにしていきたい。

学力把握のための学校の取組について

- ・ 標準学力検査（年 1 回）
- ・ 学習指導改善調査（年 1 回）
- ・ 北魚沼郡英単語テスト（年 2 回）
- ・ 中間・期末テスト（年 5 回：国社数理英）
- ・ 小テスト（年 10 ~ 15 回程度：国社数理英）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

平成 14 年度		
第 1 回 地域協議会		7 月 22 日（月）
中間発表会		12 月 11 日（水）
第 2 回 地域協議会		12 月 11 日（水）
平成 15 年度		
第 1 回 地域協議会		5 月 20 日（火）
中間発表会		11 月 12 日（水）
第 2 回 地域協議会		2 月 17 日（火）

-
- 【新規校・継続校】 継続校
 - 【学校規模】 7 ~ 9 学級
 - 【指導体制】 少人数指導
 - 【研究教科】 数学 外国語
 - 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有